

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24360256

研究課題名(和文) 根来寺史の総合的研究に基づく中世後期寺院社会像の再構築

研究課題名(英文) Overall study of Negoroji history and Reorganization of the image of temples society in the latter medieval period

研究代表者

山岸 常人 (Yamagishi, Tsuneto)

京都大学・工学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：00142018

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は多面的な文化財の包括的把握を通じて、根来寺史を構築し、そのことを踏まえて、中世後期の寺院社会の宗教的特質、寺院と世俗社会がどの関わり、その場合の寺院の役割等を、具体的事例に即して理解することを目的とした。このため根来寺・智積院・金剛寺・醍醐寺など関連寺院と、東大史料編纂所・和歌山県立博物館など諸機関の所蔵史料と校刊史料を網羅的に収集した。その上で根来寺編年史料集稿を作成したことはこの研究課題の研究推進のための基本的史料として重要な成果となった。それを踏まえて中世後期の寺院と世俗権力の関係、寺院内部での知的活動である教学・修学活動の実態とその周辺社会への普及について考察した。

研究成果の概要(英文)： In this study, we planned to make the history of Negoro-ji temple, by grasping various types of cultural assets comprehensively. Based on this result, we will consider the following points. 1. What is the religious characteristic of the temple society in the latter half of the Middle Ages? 2. How were temples and common customs society concerned? 3. What is the role of the temple of that case? We planned to understand these in line with a concrete instance. For the above-mentioned study, we collected historical materials of the following temples and archives. Negoro-ji, Chishakuin, Kongou-ji and Daigo-ji, Historiographical Institute, Wakayama Prefectural Museum etc. Furthermore, we collected published historical materials comprehensively. And we made chronological order source book of Negoro-ji temple. This source book became the important result as basic historical materials for study promotion of this research theme. Based on these studies, I considered the problems mentioned above.

研究分野：建築史

キーワード：根来寺 建築 美術 聖教 教相・事相 論義・談義 地域権力

1. 研究開始当初の背景

(1) 中世後期に絶大な勢力を誇り、真言教学の修学・伝授の拠点の一つでもあった根来寺については、遺跡の重要性や多方面からの研究にもかかわらず、それら個々の研究の評価と、それを踏まえた寺史の体系化が不十分で、総合的視点からの寺史構築が望まれる。

(2) 中世寺院史全般についての研究は、黒田俊雄の顕密体制論提唱以来、この半世紀間に多大な進展があったが、中世後半の寺院とその宗教活動の特質、寺院社会と世俗社会の関係について、なお残された課題は少なくない。

2. 研究の目的

(1) 史上著名な根来寺について、多面的な視点とそれに対応した史料を総合して、寺史を構築する。そこでの課題は、覚鑿から頼瑜を経て栄性に至る真言教学の系譜、法流相承による根来寺と他寺の寺院間ネットワーク、根来寺寺内組織の構造と寺領経営、河内・和泉地域と紀州北部地域における地域社会と根来寺の政治・経済的關係などである。

(2) (1)をケーススタディーとしながら、仏教を基軸とする中世後期社会像の再構築を行う。具体的には、寺院史研究を文化遺産の集成と統合的評価方法の確立、仏教思想と造形の有機的関連の解明、新義真言教学の特質、生産・流通・在地支配など中世後期寺院の非宗教的活動の歴史的位置付け、それを踏まえた中世後期地域社会での寺院の位置づけと変容をさぐることを目的とする。

3. 研究の方法

根来寺を巡る文化遺産の包括的蒐集(すなわち史料調査・蒐集) それを利用した根来寺史の研究作業、このケーススタディーを踏まえた普遍化研究、以上の三段階を、連携しつつ並行して実施する。

(1) 史料調査・蒐集は、根来寺所蔵の文献史料・美術作品・建造物の悉皆的調査、根来寺関連の他寺院・史料所蔵機関の所蔵史料を網羅的に収集する。調書作成と写真撮影、それらのデータベース化である。

(2) (1)の史料に基づき、課題ごとに分析し、上記目的に沿って考察を加える。なお研究期間半ばの26年度に中間報告を兼ねたシンポジウムを実施し、調査・研究成果を公開すると共に、学界の批判を仰ぎ、後半の研究の軌道修正材料とする。

4. 研究成果

(1) 根来寺史関係史料調査と蒐集

根来寺関係の史料は膨大であり、公刊された史料も多いが、一方で、根来寺にまつわる教学活動や根来寺と在地社会の関係を示す史料は未調査の部分が少ない。従って関係史料を網羅的に調査・蒐集することが不可

欠である。根来寺内の所蔵史料の悉皆的調査と、寺外の寺院および公的機関の所蔵史料を可能な限り調査・蒐集することとした。調査史料は以下の通りである。

・根来寺所蔵

文書等：文書(280点) 根来寺大日如来座像 納入品(3000点) 書(25点)

版木：根来寺所蔵根来版版木(250枚)

根来寺所蔵彫刻：大塔(初層・上層)・大門・光明真言殿・行者堂・聖天堂・岩出市歴史民俗資料館寄託の仏像群

根来寺所蔵絵画：118点

建築：11棟(国宝以外)の建築的調査、大伝法堂仏後壁画別置分の調査、大塔須弥壇痕跡調査

考古資料：境内の防災工事関連発掘調査成果検討、境内出土資料の整理

・他寺・他機関所蔵史料

聖教：金剛寺所蔵聖教・智積院所蔵聖教・醍醐寺聖教

文書：醍醐寺文書・東京大学史料編纂所所蔵史料・和歌山市立博物館所蔵林家文書・和歌山県立博物館所蔵史料

以上について調書作成・図面作成と写真撮影を実施した。

(2) 根来寺関係編年史料集稿及び関連史料目録の作成

前項で蒐集した史料に加えて、根来寺関係の公刊史料を網羅的に蒐集した。自治体史・文書集・寺史等から関係史料を博搜して、史料をカード化した上で、編年史料集とするとともに、データベース化を行った。史料数は約2000点に及んだ。また中世末から近世の在地社会との関係を知る重要な史料である奥家文書について目録を作成した。

(3) 研究成果

前項までに記した史料の蒐集はなお万全ではない。たとえば、根来寺大日如来座像納入品は今回の調査によって、その点数の膨大な上に複雑な形状をとっていることが確認されたし、智積院聖教は本科研期間中の粘り強い交渉によって初めて部外の研究者に撮影を許可された。このように史料の所在確認とそこへのアクセスの条件はきわめて視界が不透明で、なお調査を許可されない重要史料の所蔵者もある。このため史料収集は、本科研の後継となる29年度以降の科研費をも活用して継続してゆく予定である。従って研究成果も途中段階であり、最終とりまとめにはなお時間を要する。

まず根来寺の成立・形成について、覚鑿の手で高野山に開かれた大伝法院は、13世紀後期に学頭頼瑜によって高野山から移転されたという通説が定着していたが、高野山大伝法院は15世紀後期まで存続していた。一方、後の根来寺となる豊福寺は大伝法院の末寺として、同院とほぼ同時に成立して覚鑿の活動の拠点の一つとして機能し続けたが、15

世紀初頭に大伝法院の法燈を根来寺に移し、本尊・宝塔などの主要堂塔が、頼瑜の確立した中性院流の密教法流の継承拠点として確立した。

そのような過程の中で、大伝法院座主職は12世紀後期から覚鑿門流の手を離れ、仁和寺法親王・女院・幕府などの権力の影響下で寺外の僧が補任される。ここで重要なのは、座主が大伝法院外の権力の支配下に入って権力闘争が生じていても、それとは別に寺内の僧侶の教相・事相の修学と伝授の活動は続いてきたことが、金剛寺聖教をはじめとする諸寺の史料から知られる点である。このような構造は東大寺等の多くの寺でも見られるところである。

15世紀前期には座主の下に寺務代があり、その下に衆徒・行人が組織されていた。衆徒は宿老・中老・若衆の三方に組織されていた。また15世紀後期には学侶の指導者として能化という職も出現する。

16世紀には、惣分集会・一山集会等の行人方が主体となる運営組織の活動が目立ち、これらの組織やその沙汰人が、泉南・紀伊北部の中で武力も備えた地域権力として根来寺の活動の表に立った。しかし、この行人の地域支配・経済・軍事などの活動と併存して、学侶の修学活動も盛んであり、大塔の建設も百年を費やして16世紀中期に完成する。

このように根来寺の組織は座主を頂点として学侶・行人の組織があり、客層も来住して、役割分担をしながら根来寺の活動を支えていた。この寺内組織は時期により組織構成も変容してきた。しかしそれを確実にとらえるのは史料的限界があり、時期によって史料から浮かび上がる事実は偏りがある。

かかる組織の下で活動した根来寺僧の寺内外の活動は、覚鑿・頼瑜の系譜を引き、密教事相に加えて、そこに教学的な典拠や解釈を体系化した教相と、教相修学のための論義・談義が重視された。教相関係の法会記録や聖教は、伝授・書写されて関係寺院に伝領されることになった。また、修学を終えた資僧が各地での寺院と、そこでの教相・事相伝授の拠点を形成することとなった。新義真言教団はこのようにして拡大してゆくことになる。

このような根来寺史の多面的な様相は、平成26年3月8日の中間シンポジウム「根来寺史をめぐる新たな視覚」で報告するとともに、上島享による評価を受けた。この成果はその後の研究を加えて下記〔図書〕として公刊間近である。

この研究の過程での史料調査の成果として、史料保存の方策について提言の機会を得たことは、研究の附帯的な成果であった。たとえば根来寺大伝法院仏後壁の壁画は、近世後期の作である。平成7年に取り外され保管されてきたが、注目はされていなかった。しかし高野山大伝法院の仏後壁の伝統を継ぐ絵画として根来寺伽藍の形成を探る重要な

史料の一つであり、裏打・補修を検討することとなった。大日如来納入文書も、今回の調査によって、これまでの圧縮された保管状態が今後の保存と活用には適切とはいえない状況が確認されたので、整理と保管の方法について検討を行った。以上は史料調査が生み出した副産物である。

研究の成果は、5に記載した諸論考に詳細に論じてあり、さらに継続して本科研の成果を公表してゆく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11件)

平雅行「中世成立期の王権と宗教」『日本史研究』601号、2012年、46-62頁、査読あり

平雅行「出家入道と中世社会」『大阪大学大学院文学研究科紀要』53巻、2013年、査読なし、1-46頁

平雅行「専修念仏の弾圧をめぐって」『仏教史学研究』56巻1号、2013年、38-64頁、査読あり

藤井雅子「醍醐寺における葬送と律僧 - 律院菩提寺を事例として - 」『日本女子大学大学院文学部研究科紀要』第20号、2014年、77-91頁、査読なし

平雅行「日本中世における在俗出家について」『大阪大学大学院文学研究科紀要』55巻、2015年、1-71頁、査読なし

平雅行「鎌倉真言派と松殿法印」『京都学園大学 人間文化研究』35号、2015年、1-29頁、査読なし

藤井雅子「権僧正勝覚による三宝院創始とその付法」『醍醐寺文化財研究所紀要』第23号、2015年、1-16頁、査読なし

平雅行「顕密体制論と私」『史敏』14号、2016年、2-30頁、査読なし

永村眞「中世寺院とその「聖教」」『駒澤大学大学院史学論集』第46号、2016年、1-12頁、査読なし

藤井雅子「三宝院門跡と門徒 - 主に室町時代を中心に - 」『日本女子大学文学部紀要』第65号、2016年、49-62頁、査読なし

平雅行「熱田大宮司家の寛伝僧都と源頼朝」『京都学園大学 人間文化研究』38号、2017年、1-46頁、査読なし

永村眞「鎌倉仏教-密教「聖教」の視点から-」『智山学報』66輯、2017年、1-30頁、査読なし

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 3件)

永村眞「頼瑜と学山根来寺」岩出市教育委員会、『史跡根来寺境内保存管理計画書』2014年、17-21頁

平雅行、集英社、『訳注日本史料 寺院法』、2015年、担当箇所 54-125頁、134-171頁、332-353頁、396-409頁、478-591頁、888-905頁、911-923頁、996-1009頁、1024-1029、1061-1122頁

山岸常人編『根来寺史をめぐる新たな視角（仮題）』、勉強出版、2017刊行予定（平雅行「大伝法院座主職と高野紛争」、永村眞「中世根来寺の教学とその聖教」、中川委紀子「中世後期における高野山大伝法院の再構築」、村田弘「発掘調査から見た根来寺の興亡」、廣田浩治「中世根来寺権力の実像」、上島享「中世真言自院の教学とその歴史的変遷」、伊東史朗「大当時様相に安置される金剛界三十七尊像、賢劫十六尊等」の論考を収録、校正中）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 / 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 / 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山岸常人 (YAMAGISHI, Tuneto)
京都大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号： 00142018

(2) 研究分担者

永村 眞 (NAGAMURA, Makoto)
（退職により平成27年度まで）
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号： 40107470

平 雅行 (TAIRA, Masayuki)
京都学園大学・人文学部・教授
研究者番号： 10171399

中川委紀子 (NAKAGAWA, Ikiko)
日本女子大学・文学部・研究員
研究者番号： 70618991

富島義幸 (TOMISHIMA, Yoshiyuki)
京都大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号： 70618991

藤井雅子 (FUJII, Masako)
（平成28年度のみ）
日本女子大学・文学部・准教授
研究者番号： 70618991

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

村田弘 (MURATA, Hiroshi)
和歌山県文化財センター 技師

廣田浩治 (HIROTA, Kouji)
歴史館いずみさの 学芸員

前田正明 (MAEDA, Masaaki)
和歌山県立博物館 学芸員

関口真紀子 (SEKIGUCHI, Makiko)
埼玉県歴史と民俗の博物館 学芸員

藤井雅子 (FUJII, Masako)
日本女子大学 研究員 平成27年度まで

永村眞 (NAGAMURA, Makoto)
平成28年度のみ